

チーム1010-4の取り組み

年	内容	論文・著書(共著含む)	アウトカム	受賞
H14年度	東名古屋病院で進行性核上性麻痺の転倒調査開始	・パーキンソン病講座 転倒・転落及びその防止対策—進行性核上性麻痺及びパーキンソン病について— 難病と在宅ケアVol.8 No.4: 57-60, 2002(7月号). ・進行性核上性麻痺患者の転倒・転落—パーキンソン病との比較検討— 医療, 57 (No.3):177-180, 2003.3.		
H15年度	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費(15指-3)「政策医療ネットワークを基盤にした神経疾患の総合的研究」(主任研究員 湯浅龍彦)転倒・転落小委員会にて共同研究開始 「進行性核上性麻痺とパーキンソン病患者の転倒・転落」			
H16年度	同研究班 転倒・転落小委員会にて神経疾患在宅患者における転倒の多施設共同研究	・進行性核上性麻痺患者の転倒・転落—多施設共同研究—医療, 58(4):216-221, 2004.4.20		
H17年度	同研究班 転倒・転落小委員会にて神経疾患在宅患者における転倒の多施設共同研究前向き研究	・歩きにくい、転びやすい。診断と治療, 93(8):1259-1263,2005.8.1 ・進行性核上性麻痺における転倒・転落防止のための介護のポイント. 医療,59(9):486-490,2005.9.20 ・神経疾患における転倒・転落の特徴. 医療, 60(1): 15-18,2006.1.20 ・進行性核上性麻痺における転倒・転落の特徴. 医療,60 (1):19-22,2006.1.20 ・神経疾患患者の転倒・転落防止対策. 医療, 60(1):50-53,2006.1.20	「自宅で転ばないために～神経疾患患者の転倒・転落予防マニュアル」	国立医療学会 塩田賞受賞「進行性核上性麻痺患者の転倒・転落—多施設共同研究」
H18年度	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 神経疾患の診断・治療・予防に関する包括的臨床研究班(18指-9)(班長 久野貞子)の転倒研究グループ責任者となる			
H18年度	在宅神経疾患患者に対する「転ばない生活講座」による転倒・外傷予防効果の検証		入院患者における転倒防止対策フローチャート	
H19年度	パーキンソン病在宅患者に対する「転ばない生活講座」による無作為割り付け多施設共同前向き研究			
H20年度	パーキンソン病在宅患者に対する「転ばない生活講座」の長期的転倒・外傷予防効果の検証	・特集 転倒・転落をめぐって 神経難病を扱う病棟における転倒発生率と転倒予防対策. 日本医師会雑誌 137(11):2291-2295, 2009.2	在宅神経疾患患者に対する「転ばない生活講座」DVD	
H21年度	国立病院機構EBM研究「医療・介護を要する在宅患者の転倒に関する多施設共同前向き研究(J-FALLS)」	・神経疾患にみられる転倒・転落と徘徊—予防と対策— Medical Practice 26(12):2057-2061, 2011.1 ・Parkinson病と転倒. 神経内科 74(1):73-78, 2011.1	入院患者に対する転倒予防パンフレット 神経難病患者における自主トレーニング手帳(療養手帳)	
H22年度				
H23年度	転倒防止に対する神経難病棟スタッフ教育の実践—「転倒予防トレーニング」の効果— 自作川柳による転倒予防啓発活動の効果検証—転倒発生率の変化とアンケート調査—	・「転ばない生活講座」の転倒・外傷予防効果. 難病と在宅ケア 17(8):37-40,2011.11.1 ・転倒防止に対する神経難病棟スタッフ教育の実践—「転倒予防トレーニング」の効果—. 医療 65(11):562-566,2011.11 ・「転倒患者率」と「転倒事例率」 今月の用語講座に伝えたい新たな言葉と概念. 医療 65(11):566,2011.11		国立病院機構QC活動 東海北陸ブロック 特別優秀賞受賞 「自作川柳による転倒予防啓発活動～川柳で転倒予防に 取り組もう～」 転倒予防医学研究班 転倒予防入員 2011 実践部門大賞受賞 国立病院機構東名古屋病院 チーム1010-4「自作川柳による転倒予防啓発活動」
H24年度	ポスター掲示によるトイレでの転倒予防啓発効果		転倒予防川柳日めくりカレンダー	
H25年度	外出泊時における転倒の実態調査～外出泊時記入用紙の有効性について～			転倒予防医学研究班 転倒予防入員 2013 学術部門大賞受賞 J-FALLS 研究グループ「要介護者における転倒による重篤な有害事象発生率および関連要因の検討—医療・介護を要する在宅患者の転倒に関する多施設共同前向き研究—Japanese prospective fall study in elderly patients under Home nursing care (J-FALLS)」
H26年度	facebookページを開設 転倒予防川柳メールマガジン配信開始	「転倒防止日めくり」(PHP研究所)		
127年1月～H28年1月				
H27年度		エキスパートエキスパートナース 9月号 転倒予防Q&A (照林社)		
H28年度		・多職種で取り組む 転倒予防チームはこう作る! (新興医学出版社 編者 武藤芳照, 鈴木みずえ, 齋藤郁子) ・特集/メディカルスタッフシンポジウム3: 神経疾患患者の転倒を予防するために—チームで取り組む転倒予防—医師の立場から. 神経治療学 33(2):245-249, 2016.8.19		日本転倒予防学会 優秀論文賞JSFP Best Paper Award 2015 受賞 要介護者における転倒による重篤な外傷の発生頻度および特徴—医療・介護を要する在宅患者の転倒に関する多施設共同前向き研究(J-FALLS)—
H29年度	日本転倒予防学会より、「カメラを用いた転倒転落予防システム」(安全看護システム フクダ電子株式会社)の効果検証研究を受託	・日本転倒予防学会認定 転倒予防指導士「公式テキストQ&A (新興医学出版社 編者 武藤芳照, 奥泉宏康, 北満口 純)	転倒予防カレンダー2017	
H30年度	骨折後回復期リハビリ患者における栄養状態が移動能力・自宅復帰に及ぼす影響調査 多職種で、多面的な転倒予防を行うための手帳を作成 回復期リハビリ病棟におけるリハビリテーションとサルコペニアの調査 「多職種で転倒予防に取り組もう」院内勉強会開催	・認知症者の転倒予防とリスクマネジメント(日本医事新報社 編者 武藤芳照, 原田 敦, 鈴木みずえ) ・Medical Rehabilitation 多職種協働による転倒予防 私たちの取り組み(全日本病院出版会 渡邊 進編集) ・転倒による骨折後患者における回復期リハビリテーション病棟入刀時の栄養状態が日常生活動作及び自宅復帰率に及ぼす影響: 後ろ向きケース・コントロール研究. 日本転倒予防学会誌 Vol5.No.1, 81-89, 2018	中日新聞「医心伝」に転倒予防の取り組み紹介 転倒・骨折予防手帳	日本転倒予防学会 若手研究奨励賞 JSFP YOUNG RESEARCHER'S AWARD 2018 山本悠太: 転倒による骨折後患者における回復期リハビリテーション病棟入棟時の栄養状態が日常生活動作能力及び自宅復帰率に及ぼす影響: 後ろ向きケース・コントロール研究
令和元年度	転倒・骨折予防手帳に対するアンケート調査 認知症患者に対する「笑顔の約束プロジェクト」	・転倒予防白書2019(日本医事新報社 武藤芳照, 原田 敦, 鈴木みずえ 編集) ・「転ばない生活」をあきらめないで パーキンソン病の転倒予防のためにできること. マックス第52号 QOL維持・向上委員会2019		